

## 第 88 回日本医学会定例評議員会

2021 年 2 月 26 日 (金) web 開催

午後 2 時開会

**議長**(門田守人日本医学会長) 皆さん、こんにちは。会長の門田です。時間を過ぎましたので、第 88 回日本医学会定例評議員会を開催いたします。このようなコロナ禍の大変なタイミングですが、この会を開く時期は決まっておりますので、完全 Web という形で開催いたします。どうぞよろしくお願いいたしますと思います。

それでは、評議員会を始めたいと思います。まず定足数ですが、現在 1 時 55 分の段階で 70% ということで、今すでもっと増えていると思いますが、過半数ということで成立しているということをお願いしたいと思います。

それから、Web で行いますので、普通の状態ですとミュートの状態にしていただき、ご発言のあるときはミュートを外していただくということにしていただきたいと思います。それから、挙手あるいは賛成ということをご理解していただけたいと思いますので、決を採るときにはそのようにしていただきたいと思います。

まずはじめにお願いをしておきたいと思います。本日の日本医学会定例評議員会ですが、これが終了いたしましたら、このままの状態を引き続き日本医学会連合の社員総会という形に変えて審議したいと思いますので、このまま続けていただきたいと思います。

### 日本医師会長挨拶

**議長**(門田日本医学会長) 本日は日本医師会から中川会長、松原副会長、羽鳥常任理事に参加していただいています。はじめに、日本医師会会長の中川先生からご挨拶を頂戴したいと思います。

中川先生、よろしくお願いいたします。

**中川日本医師会長** 日本医師会会長の中川俊男です。日本医学会定例評議員会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、日本医学会ならびに各分科会の先生方が新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続くなか、日々感染予防や治療にご尽力されていることに対し、心より敬意を表し感謝申し上げる次第です。

日本医師会といたしましても、新型コロナウイルス感染症対策を最重要課題と位置付け、都道府県医師会や関係団体とも協調しながら懸命に取り組んでおります。感染症患者のための病床確保についても、本会が取り組む重要な課題であり、医療界を挙げて具体的方策をスピード感を持って議論していくため、この 1 月に日本病院団体協議会、全国自治体病院協議会と共に、新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病床確保対策会議を立ち上げました。会議では先般、新型コロナウイルス感染症患者の病床確保等に向けた具体的方策をとりまとめ、公表したところです。

ワクチン接種につきましては、迅速な実施を図るため、政府に働きかけを行ったほか、接種がスムーズに行えるよう、会内委員会でいくつかの地域を事例にシミュレーションを行いました。また、先生方からワクチン接種に関するさまざまな相談を受け付けるため、新たに会内に相談窓口を設置し、対応を行っています。日本医師会といたしましても、日本医学会と協力しながら新型コロナウイルス感染症の 1 日も早い収束を図ることができるよう、英知を結集し、一丸となってこの難局を乗り切れるよう努力を惜しまないところです。

第 88 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	坂井 建雄	日本医真菌学会	澁谷 和俊	日本平滑筋学会	柴田 近
日本解剖学会	(代)西 真弓	日本農村医学会	新谷 周三	日本臨床薬理学会	(欠)
日本生理学会	(連)赤羽 悟美	日本糖尿病学会	(代)鈴木 亮	日本神経病理学会	(連)渡部 和彦
日本生化学会	(連)中野 裕康	日本矯正医学会	(連)岩田 要	日本脳卒中学会	宮本 享
日本薬理学会	吉岡 充弘	日本神経学会	戸田 達史	日本高血圧学会	榎木 宏実
日本病理学会	(代)増田しのぶ	日本老年医学会	秋下 雅弘	日本臨床細胞学会	青木 大輔
日本癌学会	中釜 斉	日本人類遺伝学会	(代)吉橋 博史	日本透析医学会	(欠)
日本血液学会	三谷 絹子	日本リハビリテーション医学会	(欠)	日本内視鏡外科学会	坂井 義治
日本細菌学会	(欠)	日本呼吸器学会	横山 彰仁	日本乳癌学会	井本 滋
日本寄生虫学会	野崎 智義	日本腎臓学会	(欠)	日本肥満学会	(代)窪田 直人
日本法医学会	青木 康博	日本リウマチ学会	竹内 勤	日本血栓止血学会	山崎 昌子
日本衛生学会	(欠)	日本生体医工学会	守本 祐司	日本血管外科学会	古森 公浩
日本健康学会	渡辺 知保	日本先天異常学会	黒澤 健司	日本レーザー医学会	中村 哲也
日本栄養・食糧学会	吉田 博	日本肝臓学会	(連)竹井 謙之	日本臨床腫瘍学会	(代)清水 俊雄
日本温泉気候物理医学会	(欠)	日本形成外科学会	清川 兼輔	日本呼吸器内視鏡学会	(欠)
日本内分泌学会	(欠)	日本熱帯医学会	金子 修	日本プライマリ・	
日本内科学会	福田 恵一	日本小児外科学会	(欠)	ケア連合学会	草場 鉄周
日本小児科学会	(代)飯島 一誠	日本脈管学会	東 信良	日本手外科学会	(連)大江 隆史
日本感染症学会	館田 一博	日本周産期・		日本脊椎脊髄病学会	(連)波呂 浩孝
日本結核・非結核性		新生児医学会	中村 友彦	日本緩和医療学会	木澤 義之
抗酸菌症学会	藤田 明	日本人工臓器学会	花崎 和弘	日本放射線腫瘍学会	茂松 直之
日本消化器病学会	持田 智	日本免疫学会	三宅 健介	日本臨床スポーツ	
日本循環器学会	清水 渉	日本消化器外科学会	齋浦 明夫	医学会	(連)山澤 文裕
日本精神神経学会	神庭 重信	日本臨床検査医学会	(連)東條 尚子	日本熱傷学会	櫻井 裕之
日本外科学会	大木 隆生	日本核医学会	橋本 順	日本小児循環器学会	(連)山岸 敬幸
日本整形外科学会	松本 守雄	日本生殖医学会	大須賀 穰	日本睡眠学会	(欠)
日本産科婦人科学会	(連)三上 幹男	日本救急医学会	(連)木村 昭夫	日本磁気共鳴医学会	(連)阿部 修
日本眼科学会	寺崎 浩子	日本心身医学会	(連)吉内 一浩	日本肺癌学会	弦間 昭彦
日本耳鼻咽喉科学会	小川 郁	日本医療・		日本胃癌学会	(連)島田 英昭
日本皮膚科学会	天谷 雅行	病院管理学会	(代)寺崎 仁	日本造血細胞移植学会	(欠)
日本泌尿器科学会	(連)藤井 靖久	日本消化器		日本ペインクリニック	
日本口腔科学会	(連)片倉 朗	内視鏡学会	(連)良沢 昭銘	学会	細川 豊史
日本医学放射線学会	青木 茂樹	日本癌治療学会	吉野 孝之	日本病態栄養学会	(連)山田祐一郎
日本保険医学会	中道 洋	日本移植学会	(連)湯沢 賢治	日本認知症学会	(連)池内 健
日本医療機器学会	安原 洋	日本職業・災害医学会	佐藤 讓	日本災害医学会	大友 康裕
日本ハンセン病学会	(連)圓 純一郎	日本心臓血管外科		日本小児血液・がん学会	大賀 正一
日本公衆衛生学会	小林 廉毅	学会	(代)志水 秀行	日本老年精神医学会	(欠)
日本衛生動物学会	桐木 雅史	日本リンパ網内系		日本臨床栄養代謝	
日本交通医学会	花岡 一雄	学会	(連)永井 宏和	学会	(連)福島 亮治
日本体力医学会	鈴木 政登	日本自律神経学会	荒木 信夫	日本再生医療学会	岡野 栄之
日本産業衛生学会	(連)堤 明純	日本大腸肛門病学会	宮島 伸宜	日本脳神経血管内治療	
日本気管食道科学会	塩谷 彰浩	日本超音波医学会	(連)平井都始子	学会	坂井 信幸
日本アレルギー学会	(欠)	日本動脈硬化学会	(代)三井田 孝	日本骨粗鬆症学会	竹内 靖博
日本化学療法学会	松本 哲哉	日本東洋医学会	伊藤 隆	日本アフレスシス学会	山路 健
日本ウイルス学会	(連)勝二 郁夫	日本小児神経学会	(欠)	日本女性医学学会	若槻 明彦
日本麻醉科学会	(代)井関 雅子	日本呼吸器外科学会	(欠)	日本てんかん学会	池田 昭夫
日本胸部外科学会	澤 芳樹	日本医学教育学会	(代)平形 道人	日本インターベンショナル	
日本脳神経外科学会	(代)新井 一	日本医療情報学会	澤 智博	ラジオロジー学会	村田 智
日本輸血・		日本疫学会	(連)井上真奈美	日本内分泌外科学会	鈴木 真一
細胞治療学会	(連)紀野 修一	日本集中治療医学会	西田 修		

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

**役員** 門田会長 飯野・岸・門脇・森各副会長  
 (幹事) 今井・成宮・宮園・大江・菊田・遠山・池田・稲垣・春日・小池・小室・寺本・名越・苛原・岩本・北川・齊藤・森山・岩尾・秋葉  
**総会** 春日会頭、門脇準備委員長、山内幹事長

加えて今回の教訓を踏まえ、今後の新興・再興感染症対策のあるべき姿を具体的に描く必要があり、その実現に向け政府と医療界が一体となって取り組むことが求められていると認識しています。日本医学会の先生方には、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、日本医学会は来年の4月に創立120周年を迎えます。記念式典や記念誌の発行などに向け、門田医学会長をはじめ、役員および関係委員会の先生方が精力的に取り組んでおられることとお聞きしています。日本医師会といたしましても、本事業が日本医学会の長い歴史の中で、文字どおり記念すべきものとして大きな成果を収められるよう協力を惜しまないつもりです。

改めまして日本医学会ならびに各分科会が今後ますます発展されますようご期待申し上げ、簡単ですが挨拶の言葉とさせていただきます。

**議長**(門田日本医学会長) 中川会長、本当に温かいお言葉ありがとうございます。本当に会長が毎日のようにテレビに出て、われわれを守っていただいているというように感じています。ありがとうございます。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

#### ■議事録署名人

**議長**(門田日本医学会長) それでは、評議員会に入りたいと思いますが、はじめに議長ですが、日本医学会規則第13条で会長の私が務めることになっていますので、務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは早速ですが、議事録署名人の選出を行いたいと思います。こちらのほうで指名をさせていただきますと思いますが、まず、基礎・社会医学会系は日本医療情報学会の澤 智博先生、出席していただいておりますでしょうか。よろしくお願ひいたします。臨床医学系のほうは日本核医学会の橋本 順先生、いらっしゃいますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

#### ■次第(議事概要)

**議長**(門田日本医学会長) では本日の議事の概

要ですが、はじめに、第31回日本医学会総会の準備状況を総会役員の方からお伺いし、そのあと年次報告を行うということにしたいと思います。協議事項としては、2021年度の事業計画、日本医学会加盟学会および加盟審査基準の改定についてお諮りしたい。そのあと質疑応答をとりまして、会を終えたいと思っています。

#### ■日本医学会長挨拶

**議長**(門田日本医学会長) はじめに、会長として一言ご挨拶させていただきます。改めてお話しすることは、今のコロナ禍の中で、日ごろ今まで過去になかったようないろいろなことが発生し、それだけではなく、社会的な課題と言ってもよいものも発生してきているというようなことを考えますと、われわれアカデミアは、学術団体としてどうあるべきかということが日々問われているというように深く思っています。そういった意味で、本日の評議員会にはそのような内容も加味しながら進めていく必要があるというように思います。

先ほど中川会長からもおっしゃっていただきましたが、来年で120周年、人間で言うならば大還暦という本当に記録的なタイミングということになってまいります。そして今、社会は大きくさまざまな課題が発生してきているという状況。そのような意味においては、われわれ自身も大きなこのタイミングでの活動としては、相当しっかりと考える必要があるし、それが求められていると思っています。今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

#### ■第31回日本医学会総会準備状況

**議長**(門田日本医学会長) それでは、先ほど申し上げましたように、最初に、第31回日本医学会総会の準備状況について、春日会頭並びに準備委員長の門脇副会長のご説明をお願いしたいと思います。春日先生、門脇先生、よろしくお願ひいたします。

**春日第31回日本医学会総会会頭** 第31回の日本医学会総会の会頭を務めます春日でございます。資料8といたしまして、私どもの趣意書を提

出しておりますので、詳しくはあとでそちらをご覧くださいと思いますが、まずはじめに、私のほうから簡単に第31回の日本医学会総会についてご紹介申し上げたいと思います。

第31回の日本医学会総会は、「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」をメインテーマといたしまして、2023年4月、東京国際フォーラムならびに丸の内・有楽町エリアにて、学術集会、学術展示、一般展示を中心に開催いたします。

さて、わが国は新型コロナウイルスの感染拡大、そしてまた、少子超高齢社会という状況に直面する一方、AI、IoT、ロボティクスなどの技術革新が進み、医学・医療も大きく変わろうとしています。第31回の医学会総会では、最新の医学・医療について各分科会の枠を超えて議論し、豊かな人生100年時代につながる新しい医学・医療の在り方について、参加者の皆様と認識を共有したいと思っています。同時に一般市民の皆様には、医学の面白さや素晴らしさ、そして未来の医療について理解を深めていただくよい機会にしたいと思っています。

今回の医学会総会は、日本医学会に加盟している136の分科会の総会という基本に立ち返り、各分科会にはこれまでに各種のご協力をお願いしてまいりました。今後もたとえば総会期間中の各分科会による特別展示など、いろいろとお願いする予定です。引き続きよろしく申し上げます。

また今回は、初めて男女共同参画等委員会を立ち上げ、学会や大学等における男女共同参画の取り組みや、医師の働き方改革などの課題も積極的に取り上げる予定にしています。そして毎回医学会総会には若い人の参加が少ないとのご指摘をいただいています。そこで今回、40歳未満の皆さんによるUnder 40、U40の学術委員会も立ち上げました。若い人たちにも魅力のある学術プログラムや展示を企画できればと期待しています。

私の挨拶はこれで終わりました。門協準備委員長から準備状況等を含めてもう少し詳しいご説明をさせていただきます。よろしく申し上げます。

**門協第31回日本医学会総会準備委員長 準備**

委員長を務めております門協です。本日の日本医学会年次報告、資料1になりますが、1～2ページに日本医学会総会の準備状況について記載されていますので、資料に沿ってご説明いたします。

「第31回日本医学会総会 2023 東京」の準備につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響下ではありますが、組織委員会の下、総会の開催形式も含めて各委員会で討議を重ね、準備を進めています。現在のところはいわゆるハイブリッド方式で行うということを考えています。また、資料の1ページ目には2020年4月～2021年2月までの主要な委員会の開催状況について、これは主にZoomを使用していますが、記載されていますので、ご参照ください。

主な点を簡単にご説明いたします。学術委員会、これはプログラムを作る委員会ですが、春日会頭からもお話がありましたように、U40委員会を設置し、13セッションについて提案していただきました。最終的には10弱に絞り込まれますが、若手企画を重視しています。また、136の分科会に学術プログラム構成に関するアンケートを実施させていただきました。分科会の先生方からは熱心にご提案をいただき、誠にありがとうございます。そのアンケートの結果を生かしながら、日本医学会総会のプログラムとしてできるだけ領域横断的なものとなるよう、臨床系、基礎系、社会医学・看護系、医工学系のサブグループに分かれて、現在プログラムを絞り込んでいるところです。

さらに、前回どおり、日本医学会奨励賞について総会での発表・表彰を行うこととしています。

次に展示委員会、2ページ目になりますけれども、医学史展示、市民展示、学術展示を予定しており、具体的な検討を進めているところです。

また、2025年の大阪・関西万博「いのち」を主題として日本医学会総会のテーマと共通していることから、同万博との連携を進めたいと考えて、過日、井上万博大臣のもとを会頭と私で訪問いたしました。相互に連携していくということになりました。

次に4番目の記録委員会ですが、4年に1度の医学会総会では、その総会ごとに岩波新書の発行

を行ってきています。春日会頭の下での第31回でも同じように岩波新書を発刊したいと考えていまして、全体の構成についておおむね決定をしたところではあります。

5番目の男女共同参画等委員会ですが、今回初めて男女共同参画等委員会を設け、さまざまな講演あるいは展示等々で男女共同参画の精神を取り入れた企画を多く準備しているところであり、さらに市民公開講座もそのようなテーマで行っていくことを現在検討しています。

その他のところになりますが、広報委員会ではホームページを開設しています。まだ開設したばかりで、たくさん内容が載っているわけではありませんが、URLを載せていますので、機会があればご参照いただければと思います。

なお、事務局は東京大学医学部附属病院に置いております。事務局の連絡先も書いてありますので、何かあればそこにご連絡いただければと思います。

以上です。

議長(門田日本医学会長) 春日先生、門脇先生、どうもありがとうございます。準備は順調に進んでいるようです。特にいろいろと新しいことを導入していただいているということを感じました。よろしく願いいたします。

## 2020年度日本医学会年次報告

議長(門田日本医学会長) それでは、その続きからまいりたいと思います。報告事項の2番目、「2020年度日本医学会年次報告」の件です。1番目につきましては、いま第31回の総会の報告がありましたので、2番目、日本医学会幹事会から進めたいと思います。2ページです。ここは2020年とありますが、2021年2月26日のミスプリントで、本日Webでこの前に開催いたしました。

その次、評議員会ですが、ただいま行っているこの会です。

その次に進んでください。4番目、日本医学会シンポジウムです。シンポジウムは主に医療関係者を対象に年2回開催しています。しかし本年度は新型コロナ感染症拡大の関係で、2月に開催を

予定していたシンポジウムは12月に延期されるということになりまして、今年度は1回だけの開催になりました。12月19日「遠隔診療とロボット支援手術の未来」をテーマとして、観客はなくシンポジウム形式で行い、それをホームページに載せるという形にさせていただきました。これまではDVDを作って各部署にお配りしていたわけですけれども、いろいろ調べてみますと、今ではほとんどホームページその他のオンラインライブラリーのような形で利用されることのほうがはるかに多いということで、DVDは今年からやめるということにさせていただいたところです。

次は日本医学会公開フォーラムです。4~5ページですが、これはシンポジウムと異なりまして、基本的には一般の方々を対象にしています。今年の6月は「肺炎を理解する~肺炎予防の重要性とあなたもできる肺炎対策~」。実はこれはコロナの問題が発生する前に企画していたものですが、内容が非常に関係するというので、そのまま開催させていただきましたし、その次の冬には「コロナへの対峙:保健・医療の変容とこれからの社会」を、これもまさに今のタイミングにマッチした2つのものを、シンポジウムは1回でしたが、フォーラムは2回開催させていただいたということです。詳細につきましては資料に上がっていますが、こういう形で開催させていただいたということです。

次にまいります。6番目、日本医学会協議会。これは日本医学会の会長・副会長、それから日本医師会の担当副会長と常任理事、松原副会長と羽鳥常任理事に参加していただいで毎月開いており、基本的なことをいろいろと決定していただいているということです。

7番目、日本医学会医学用語管理委員会。これは必要に迫られたといえますか、いちばん古くから立ち上がっている委員会です。この委員会では今年度から大江和彦先生に委員長となっていただきました。これから医学用語そのものも変わっていく可能性があり、ビッグデータそのほかの処理について、いろいろと考えていく必要があるということで、少し方向性も検討する必要があるのでは

はないかというような形でスタートしていただいております。

8番目、これは医学用語の中で最近いろいろと問題が出てきていますけれども、「奇形」という単語を日常の医学用語として使っていることについての問題点というようなことから少し考え直そうということで、これを新たにスタートしたというワーキングです。

9番目、分科会用語委員会。これはそれぞれの分科会の用語委員会の方々に集まっていたくという形で、大きな会になりますけれども、それを開いています。

10番目、日本医師会医学賞・医学研究奨励賞。これは8月28日に開催され、受賞者を選び、3名の方が医学賞、15名の方が医学研究奨励賞を授与されています。水島 昇先生、近藤克則先生、小池和彦先生という3人の方に医学賞、省略いたしますが、15名の方に奨励賞が決定され、日本医師会会長と医学会長の私の名前で賞状をお渡ししています。

11番目、日本医学会加盟検討委員会。日本医学会加盟検討委員会では、本医学会への加盟の申請、加盟の在り方等も検討するということになっていますが、この件につきましては、協議事項の2番目でお諮りいたします。そのときは森 正樹委員長の方からお話をさせていただきますので、ここでは割愛させていただきますと思います。

12番目、日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会。これも当初はNIPTについての問題意識からスタートいたしました。だんだんと内容が広がって行くこともあり、これから先も広く検討できるような委員会をということで、少し委員の再構成を行いました。その関係で11月から委員会がスタートしています。

13番目、日本医学会利益相反委員会。これは徳島大学名誉教授の曾根三郎先生が委員長で進めています。このコロナ禍で、直接お会いしての委員会というのは開かれていないというのが現状です。この利益相反委員会を含めて、日本医学雑誌編集者組織委員会あるいは日本医学会連合の研究倫理委員会、診療ガイドライン検討委員

会という4つの委員会が合同で研究倫理教育研修会という、われわれにとっては非常に重要な研修会であるということで、4委員会が合同で開催していただいています。

14番目、日本医学雑誌編集者組織委員会。これは北村 聖先生が委員長で継続して開催しています。

その次、15番目、研究倫理教育研修会。先ほど利益相反委員会のところで言いましたが、これが4つの委員会が合同で開催している研究倫理教育研修会です。

その次、16番目、日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会。これは日本移植学会、日本産科婦人科学会などからこの検討を依頼されて、今検討をしています。相当な回を重ねてきていますが、いろいろな意見や方向性があるということで検討を重ねており、そろそろ方向性を絞っていかねればというようなことになっています。

その次、17番目、日本医学会総会あり方委員会。これも以前からあったわけですが、今回は春日会頭にいろいろと改革案を加えていただいています。基本的な総会の在り方を考える委員会です。

その次、18番目、再生医療等レジストリ協議会。これは日本再生医療学会から相談されて、医学会の中で発足することになりました。最近では再生医療のいろいろな製品が表れてきていますが、これを日本再生医療学会単独というよりもっと幅広い状態で、医学会全体として行っていくというご相談を受けたことから、医学会内の協議会として開催することになり、日本再生医療学会とも連携して進めていくということになりました。

19番目、日本医学会創立120周年記念。これは報告事項の3番目に入っているのですが、そのときに話をさせていただくことにしたいと思います。

20番目、移植関係学会合同委員会ですが、これは古く1992年に厚生省の依頼を受けて、日本医学会会長が合同委員会の世話人を務めるという形で、厚生労働省、日本医師会、関係学会等で構成している委員会です。今のところ書面決議が多くなっていますが、主に移植施設の認定あるいは取り下げ等のことを検討する委員会です。

その次、21番目、日本医学会 e-News ですが、これは今まで『日本医学会だより』として平成元年からずっと続けていたものですが、本年度からは『日本医学会 e-News』という名称に変えて Web 発信しています。

その次、22番目、情報発信ですが、これはいくつかのことがあります。まずホームページ、今の時代非常に重要なホームページですが、携帯あるいはスマホでも見えやすいようにするために、現在リニューアルを進めており、本年度中に何とか完成を目指しています。

そのほかのものとして、日本医師会で「日本医師会 COVID-19 有識者会議」を発足し、その中に日本医学会として参画しています。また、4月29日に安倍総理と加藤厚労大臣に対して「緊急提言 進行する医療崩壊をくい止めるために」を提出し、それを10年近く前から言っているように、JapanCDC と当時では言っていましたが、そのようなものも設立するべきではないかという話をしたということがあります。

また、7月には乳腺外科医が強制わいせつ罪という形で起訴され、それが有罪になるという高等裁判所の判決が出ました。そのタイミングでわれわれの見解として、それに対しては、もう少ししっかりと検討が必要であるということを会見で述べたことがありました。

そのあとは会議の開催数で、ここに書いてありますので、ご参照いただきたいと思います。そのほかは記者会見、その他という資料が添えられていると思いますが、そのようなことを行ってきたということです。

大体以上が年次報告ということになります。何かここまででご発言のある方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。特によろしいですか。

それでは、次に医学会の予算についてご報告をさせていただきたいと思います。ここに出ていますが、2020年度の予算で、医学会支出の部についてのご報告です。見ていただくとわかりますように、予算は1億2,000万少しという形で、いろいろな委員会その他に充てていただい

ているということです。よろしいですか。また、来年度の予算につきましても、同額で増減なしという形で、日本医師会のほうで承認を受けているというように聞いています。

ということで、年次報告を終わりたいと思いますが、ご発言がありましたら、おっしゃっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございました。

## ■日本医学会創立 120 周年記念事業

議長(門田守人日本医学会長) それでは、その次の3番目、日本医学会創立120周年記念事業の件をご報告させていただきます。日本医学会が創立したのが明治35年、1902年の4月2日からということで、もとは16分科会で、上野の東京音楽学校で日本連合医学会という形で開催されたということです。それから考えまして、来年の4月2日でちょうど120年ということで、人間で言うならば還暦の倍、大還暦というときに当たるということで考えてみますと、明治維新以来の大きな日本の近代化の歴史そのものがこの120年に当たるということです。

そのようなことで、この機会にこの間の歴史的なことをしっかりと見返し、それらを資料として、しっかりと整理する必要があるのではないかとあります。それと同時に、120年という形で生活を続け、研究し、いろいろなことを進めてきたことで、その次の120年に向けてわれわれは何ができるか、何をすべきかが問われるということから、未来に向けては提言、過去については記念誌としての編纂を考えています。式典委員会、それから記念誌編纂委員会、そして未来への提言委員会というような形で、大きく3つの委員会で検討していただいています。

コロナの状況によってどうなっていくのか、まだ定かではありませんが、一応2022年4月2日午後、今の段階では帝国ホテルで開催することを予定し、具体化に向けて検討しています。これからの120年と言いましたが、未来への提言には、今後長期的に見てどうかというようなことに力を入れて記載したいと考えているところです。

この件について何かご発言がありましたら、おっしゃっていただきたいと思います。いかがでしょうか。ありがとうございました。

引き続き、協議事項に入りたいと思います。協議事項1) 2021年度医学会事業計画の件ですが、資料2です。これまでの医学会での事業というのは大体継続しているものが多いのですが、今回もそういった意味では特に大きく変化ということはありません。先ほども20年度の報告をさせていただきましたが、21年度もさほど大きく変わることはありません。31回総会が2年後ということになるので、その準備。それから、120周年の最後の1年となるということが、この時期として絡んでくるのではないかと思います。続けていくべきものを今後も続けていくという形で進めていきたい、ということです。

非常に簡単ではありますが、21年度の事業計画については、こういうことでご承認していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。何かご発言はありますか。よろしいですか。それでは、承認していただける場合、挙手をお願いしたいと思います。

(挙手)

108人の方からの賛同を得ました。過半数でするのでお認めいただいたということにさせていただきます。では「手を下げる」をクリックしてください。ありがとうございました。

## 2020年度日本医学会加盟学会

**議長(門田日本医学会長)** それでは、次にまいります。2020年度日本医学会加盟学会および日本医学会加盟検討委員会の報告改定(案)ですが、この件につきましては、委員長の森先生にご説明をお願いし、それから賛否を得たいというように思います。それでは森先生、よろしく申し上げます。

**森加盟検討委員会委員長** 日本医学会加盟検討委員会委員長を拝命しております森です。

資料6にありますように、2020年度は、2020年5月15日に新規加盟申請の公示をいたしまして、7月31日の締切日までに全部で29の学会か

ら加盟申請がありました。最初に13名の委員によって書面審査が行われています。12月3日に日本医学会加盟検討委員会が開催されまして、書面審査を通過しました学会につきまして十分な議論をいたしました。加盟には出席委員の2/3以上の賛成がなければ認められないというルールがありますので、その学会の学術性、国際性、社会貢献度などさまざまな観点から審議した結果、日本骨代謝学会と日本婦人科腫瘍学会の2つの学会を委員会として推薦することになりました。

この2学会の推薦を2021年1月8日の第10回日本医学会協議会に報告し、協議会で了承が得られましたので、本日開催の第4回日本医学会幹事会に提出し、同様に了承が得られました。そこで、本日の第88回日本医学会定例評議員会にてお諮りしたいと思います。よろしいでしょうか。特にご異論がなければ、この2つの学会についてお認めいただくということで、門田先生、お願いいたします。

**議長(門田日本医学会長)** 森先生、ありがとうございました。2つの学会を加盟検討委員会のほうから推薦いただき、その後幹事会で承認されてきています。この評議員会でもお認めいただけますでしょうか。挙手をお願いしたいと思います。

(挙手)

104名の賛成を得ました。お認めいただけたということです。ありがとうございました。では続きをお願いいたします。

**森加盟検討委員会委員長** それでは、本日お認めいただきました2学会につきましては、3月16日に開催されます第13回日本医師会理事会へ報告し、そこで機関決定することになりますので、本日の結果につきましては、それまでは外に出さないようお願いいたします。よろしくようお願い申し上げます。

## ■日本医学会加盟検討委員会報告改定(案)

**森加盟検討委員会委員長** では続きまして、日本医学会加盟検討委員会報告改定(案)についてです。資料7-4です。現在の日本医学会への新規

加盟は、審査基準として平成23年7月に改定されました日本医学会加盟検討委員会報告に基づき審査が行われています。しかし、実際に審査をしておりますと、時代にそぐわない部分も出てまいります。そこで本年度、時代の趨勢を鑑み、審査内容について見直しを図ることとなりまして、日本医学会加盟検討委員会を4回にわたり開催し、審議を重ねてまいりました。そこでの議論に基づきまして作成いたしましたのが、提出資料7-1～7-3になります。

7-1にいろいろ書いてありますが、委員会では申請学会の活動状況などを客観視できる資料があれば、という意見が出て、従来の加盟申請書に加えてチェックシートをご提出いただくこととなりました。

まず、この新規加盟の審査基準については資料7-2をご覧ください。このチェックシートは、それぞれ申請書の書式というのと同じなのですが、ただ、捉え方によって一貫性がないということがありましたので、こういうことを見ながら、チェックしながら書いていただくのと抜けがないということで、このチェックシートを用意したということです。

いちばん左上に基礎医学系、社会医学系と書いてありますが、これは基礎医学系、社会医学系で申請しようという学会に対しまして、いちばん左側にチェックポイントとして、設立からの年数、法人格の有無、会員数、その下には学術集会、さらにその下に機関誌、和文誌、英文誌等々のポイントがありまして、それを右側の欄に応じて書いていただくということになります。

次のページをお願いします。これは臨床医学系で、外科系・内科系がこれに則って申請することになるので、若干の違いはありますが、基本的にはほとんど同じということです。

次をお願いいたします。次は、最近では融合分野が非常に増えてきているということで、いちばん左上をご覧くださいますと、基礎医学融合ということで、分野としては大きく基礎医学系、社会医学系、臨床系、それからこの融合型という形で、チェックシートを用いて書いていただくというこ

とです。

資料7-3は新しい加盟申請書(案)です。資料7-3の最後のほうに「2021年度日本医学会加盟申請書・チェックシート記載上の注意事項」というのがありますが、上から3番目の「分科会としての独自性・必要性」というところで、I-1として「既存分科会との関係」、I-2として「貴学会独自の研究・活動」、IIとして「貴学会の貢献」という3つの項目があります。これらの項目については、新たに記載を加えたものとなっています。より独自性あるいは貢献度ということを重んじようということです。

もう一度資料7-2に戻っていただいてもよろしいですか。繰り返しになりますが、チェックシートで基本要件というのがあります。ちょっと右側を出していただいて、学会の事業の右側、その他ですね、こういうところを書いていただくということです。ですので、これによって抜けが防げる。それから、より必要な部分をしっかり書いていただけるといことになろうかと思えます。

資料7-1は、いま申し上げたことを大体まとめたものですので、これをご覧くださいければというように思います。

それでは、これをご承認いただけるかどうか、門田先生、またお願いいたします。

**議長(門田日本医学会長)** 森先生、ありがとうございました。加盟検討委員会のほうから新しい審査基準という形で、申請からこのように進めていきたいということが出されたのですが、この件について何かご発言……。もうすでに皆さん手を挙げていただいて、これも109名という賛成です。森先生、お認めいただきましたので、続きをお願いします。

**森加盟検討委員会委員長** ありがとうございます。それでは、今後の予定としましては、加盟申請の公示日の5月15日までに、新たな日本医学会加盟検討委員会報告を日本医学会ホームページに掲載する予定にしています。2021年度からは、この新しい基準に則って審査が行われる予定ですので、関係の皆様がおられましたら、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上です。

**議長**(門田日本医学会長) はい、ありがとうございます。ございました。加盟検討委員会のほうでいろいろと検討していただいたことを本日お認めいただいたということで、2021年度から新しい方法で申請を受け付け、審査していくということになります。

加盟に関して以前からお願いを申し上げていたことがあるのですが、ここで改めてお願いを兼ねてお話をさせていただきたいと思います。

学会名の変更というのは、長期にわたればいろいろとあるということは理解ができると思いますが、やはり前からお願いしていますように、今までは前もってこうなりましたという連絡を受けて対応するという形で来たのですが、それがだんだんと難しくなっているというように思います。

ですので、学会名の変更をお考えの段階で一度ご相談していただくということ、ぜひお願いしておきたいと思うのです。学会によっては非常に類似の名称になってきたりというようなこともありますので、自分中心的に考えたときは特に大きな問題はないということも、ほかのところとの関係において話が複雑になってくる危険性もあるということで、その辺りのことをうまく調整しながら、内容のよいものをどんどん伸ばしていくというのが、われわれ全体の立場を取る医学会としても大切なことだろうと思いますので、ぜひこの件はよろしくお願ひしたいと思います。

それからもう1つなのですが、今も審査基準の変更ということがありましたが、入ってくるものに対しての審査基準ということはいろいろと考えられるのですが、120年近く前の段階から変わっていないものもありますし、あるいは時代の流れと共に研究の内容も大きく変わってくる場合もあるかもしれないということになってきたときに、この内容についてどのように考えるのかということも考えておく必要があるのではないのかということ。入会のときに考えていくのと同時に、これまでの長い活動そのものを時代の流れの中でどのように見ていくかというようなことも考えつつ、その活動も含めて、ある意味活動状況を報告していただくということ、あるいは報告し

合うという表現がよいかも分かりませんが、何かそういう感じのことを少し導入することも考えたかどうかというようなことを今はまだ検討中ですが、考えているということです。これはお願ひというよりも、今の状況の報告をさせていただきました。

それからもう1点、この加盟学会と実際の日常的な診療の中でガイドラインを作ったり、あるいはそのほかの臨床的な課題についてのディスカッションをするときに、加盟している学会と、加盟はしていないがある診療領域については独自のものがあるというような学会もあるので、その辺りのことが、すべて加盟学会でないといけないのか、あるいは加盟という形ではない連携の学会があってもよいのかなどということも含めて、考えていく必要があるかなということも考えたりもしています。

今後さらに検討して、正式にご報告させていただきたいと思いますが、せっかくのチャンスですので、何か皆さん方ご意見がありましたらおっしゃっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。どなたかご発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょう。

特に、いま申し上げたような基本的な考え方のもとに検討を進めるということでもよろしいですか。ないようでしたら、引き続きそのように検討させていただきたいと思います。

ということで、本日予定していました議事は以上ですが、どなたか全体を通じてご発言がある方は、どうぞ挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。初めての完全Webによる今回の評議員会だったのですが、その辺りも含めて何かありましたら、ご意見を聞かせていただきたいと思いますが、いかがでしょう。

**島田英昭**(日本胃癌学会) 胃癌学会の島田ですが、発言してよろしいですか。

**議長**(門田日本医学会長) はい、どうぞ。お願ひいたします。

**島田** かなり大勢の重要な先生方がたくさん出席されていますので、やはり移動時間を考えたら、今後もしもできることならオンライン会議のほうが私

はよいと思いますので、ご検討ください。

**議長**(門田日本医学会長) はい、ありがとうございます。確かに出席率は高くなりますね。ありがとうございます。そのほかどなたでも結構ですから、何かありましたらおっしゃっていただきたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、ないようでしたら、すべての議事が終了しましたので、終わりたいと思います。いま島田先生からもお話をいただきましたが、完全Webというのは今回初めてで、どのようなことになるのかなど、採決を採るのはどのようになるのかなというところもあり、機械的にできないというようなこともあるのかなと心配していたのですが、そのようなこともないようですし、なんとかできるということと、今おっしゃっていただいたように、出席率もよくなるということで、これも1つの対策かなという感じがいたしました。

これが部分的にするのと完全Webというのが、ハイブリッドと何とかで、実際それを担当してくれる人たちに聞くと、難しさがちょっと違うようなこともありますので、すぐどうにかできるということはないかも分かりませんが、これから先、またこれからコロナがどのぐらい続くのかというようなことも影響が出るかも分かりませんが、そのようなことも考えながら進めさせていただきたいというように思います。

いろいろな検討会や委員会等を含めましても、非常に出席率がよくなっているのは事実なので、そのようなことで、おっしゃられることもそのとおりだと思いますし、ただ、そうかといって、微妙な話のときには対面のほうがよいかなということもありますので、その辺りはまだまだ検討が

必要なと思います。

**寺本民生**(幹事) 門田先生、ちょっとよろしいですか。

**議長**(門田日本医学会長) はい、どうぞ。

**寺本幹事** 私もこのような形ができることは望ましいと思うのです。皆さんもおそらく会場への移動時間も浪費しなくて済むのでよいと思うのですが、定款は大丈夫ですか。定款を改定する必要はないのでしょうか。もし必要ならば、改定しておかなければいけないかなと思うのですけれども。

**議長**(門田日本医学会長) おっしゃるとおりで、一応事務的に調べてもらったのでは、大丈夫だったのですよね。

**事務局** 特に記載はありません。

**議長**(門田日本医学会長) 調べてもらって、それらしきことはあったけれども、詳細な記載にはなっていないので。

**事務局** 2月に開催するという記載だけです。

**議長**(門田日本医学会長) 今おっしゃっていただいたように、定款を含めて規則かどこかの段階で正式に決めておくということは必要だと思うのですね。確かにいつまでこれを続けなければならぬかというのは正直まだ分かりませんが、

**寺本幹事** これはもしかすると、コロナでなくても、こういう形で参加できるというようにしておくことも、今後考えてもよいのではないかと思っているのです、よろしく願いいたします。

**議長**(門田日本医学会長) はい、ありがとうございます。そのほかどなたかありませんでしょうか。よろしいですか。それでは、少し予定の時間よりも早いかも分かりませんが、本日の評議員会はこれで終わりたいと思います。